



各単組定期大会開催

全港湾



全日本港湾労働組合の第九一回定期全国大会を、九月二十四日、二十五日の二日間、シパレスにて開催した。全国から大会代議員六十一名、中央本部役員十八名が出席、委任状提出者が大会代議員二十七名、中央本部役員一名、議長団は部原代議員(九州)、秋山代議員(北海道)が務めた。今回の大会は新型コロナウイルス

日港労連



九月十六日、十七日に掛け、第六十八回定期大会を石川県加賀市内に於いて開

検数労連

九月十七日から十八日に掛けて、ホテルシパレス

ウィルス感染症の影響により開催が危ぶまれるという前代未聞の状況にあったが、八月に開催した臨時中央執行委員会において「感染症法及び激甚災害法に基づく非常時における組合規約・規定の限定的緊急特例措置(案)」を大会に提出し、緊急措置として、委任状提出者を出席として扱う、郵送による議決権行使を実施する、郵送による入

ト権投票を実施する、郵送による役員信任投票を実施することなどが確認された。そして、定期大会の冒頭、特別議題についての採決がおこなわれ、賛成多数で可決、大会は特別議題で可決された内容に沿って進行された。そして、第一議題から第一

動方針案では、港湾荷役・関連部門・検査部門を踏まえ、現業労働者の地位向上・職域の確保・安全問題・組織強化など多岐に亘る運動方針案が満場一致で議決され、大会スローガンを

また、大会開催に向けて、コロナ禍による感染防止策を十二分に取り入れての開催とした。大会では、全国港湾・糸谷中央執行委員長、玉田書記長をお招きして産別運動に結集する者として、お互いに団結と、掛かる諸課題の克服に向けた取り組みを共に頑張ろうとの貴重なご挨拶を頂いた。

そして、二〇二〇年度定期大会を締めくくった。最後に、竹内中央執行委員長のカンパロウ三唱で組織の団結と拘束力の決意を新たに固め、第六十八回定期大会を締めくくった。

リソート豊橋で第五十二回全国検数労連定期大会を開催し、一九年度運動の到達点と総括、二〇年度運動方



の開催となった。

そのような状況ではあったが、全国港湾をはじめとした各単組の皆々から激励のメッセージを多数いただいたことに、紙面を借りて厚く御礼を申し上げます。

一九年度の運動の経過については、関係する諸団体と連携をはかりながら様々な行動に力を注いできたが、二月後半以降、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、行動全般の自粛を余儀なくされた一年だった。このことは二〇春闘や二〇夏季一時金闘争などにも大きく影響し、検数経営

からも『コロナ禍による収支悪化』などが前面に出されるなど、闘争の中で要求を抑え込むとする『事業計画の範囲内』という攻撃

会は、九月十五日から十七日まで、途中各単組定期大会を挟み、豊橋市「ホテルシパレスリソート」において、代議員二十一名、役員九名、顧問、特別中執、書記局の総数三十三名の参加のもと開催された。コロナ禍に於ける今大会は、感染防止の観点から代議員の六名がリモート参加により

検定労連第四八回定期大

を打破することに困難を極めた。

二〇年度運動方針では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、労働者のいのちと健康が危ぶまれる、生活と暮らしの先行きに暗い影を落としているなか、これまでの運動と学習の積み重ねに確信を持ち、直面する課題に即応した運動が求められていることか

ら、あらためて中央・地域・支部が連携をはかりながら『雇用・職域の維持、拡大』『生活の安定に向けた経済要求の前進』『組織強化・拡大』『平和を守る運動の展開』の四点を基調とした運動の前進をはかっていくことを確認した。

具体的な取り組みとして、全組合員の声を結集させながら全国港湾・共闘関係などと連携をはかり、共同行動を基本に平和と民主主義、国民本位の政治への転換を求めて行く。

経済要求の前進に向けた取り組みでは、全組合員が一丸となってコロナ危機を跳ね返し『仕事と収入の確保』運動を日常活動の実践

会は、九月十五日から十七日まで、途中各単組定期大会を挟み、豊橋市「ホテルシパレスリソート」において、代議員二十一名、役員九名、顧問、特別中執、書記局の総数三十三名の参加のもと開催された。コロナ禍に於ける今大会は、感染防止の観点から代議員の六名がリモート参加により

検定労連第四八回定期大

と結合させながら、時間外労働に依存しない賃金の確立、安定した一時金の確保に向けた『経済要求の前進』をはかっていくこととする。

組織強化・拡大に向けた取り組みでは、日常活動の強化が求められることも、職場環境の改善や職場

産別運動の取り組みでは、政策課題として『認可料金・港湾・インフラドレポ・ゲート業務』。労働条件に係わる課題では『安全衛生・定年延長・週休2日』を取り組むことを確認した。とりわけ『港湾の自動化・機械化』については労働者の職域を奪うものとして『反対』の立場で取り組んでいく。以上の方針を全体確認し、第五十二回検数

大会は、十分なコロナ感染対策を行ったうえで、執行部・代議員を含め一〇名参加のもと議長に濱崎代議員(富栄)、盛田代議員(大荷)選出し議事進行を

代議員(単組代表)や、地連代表、中央執行委員長ら六十一名が参加した。

全倉運は、九月十日(木)に名古屋市・ウイックあいちを会場に、第七五回定期

大会を開催

大港労組



大港労組は十月九日、大阪港湾労働者福祉センターに於いて第六八回定期大会を開催した。

大会は、十分なコロナ感染対策を行ったうえで、執行部・代議員を含め一〇名参加のもと議長に濱崎代議員(富栄)、盛田代議員(大荷)選出し議事進行を

代議員(単組代表)や、地連代表、中央執行委員長ら六十一名が参加した。

全倉運は、九月十日(木)に名古屋市・ウイックあいちを会場に、第七五回定期

シャモ樽

感染拡大が進む新型コロナウイルス。WHOによると、世界では三十四種類のワクチン候補

が安全性や効果を確認する臨床実験(治験)段階にある。感染対策を急ぐ各国にとってワクチンへの期待は大きく、治験が終わらないまま承認し、接種しようとする大国の動きもある。通常、ワクチンの開発には五年から一〇年かかるが、実際は人に投与する治験は三段階に分けて行われる。だが、ロシアは開発中のワクチンを最終治験が始まらないうちに承認。中国も緊急投与を始めたこと報道されている。アメリカのトランプ大統領は大統領選挙前の接種を繰り直し主張している。承認前の接種については、安全性が懸念されるが、WHOは「急ぎすぎると有害な事実を見逃す。承認には熟考を」と慎重な姿勢を求め、九月初めには欧米の大手製薬会社九社が抽選承認申請はしないと共同声明を出し各国政府の動きをけん制した。日本ではどのような動きになっているのかと言え、政府が、来年前半までに国民に接種可能な量のワクチン確保を目指し、英製薬大手と一億二千回分の供給に合意している。ただ、多くの専門家は安全性や効果の検証が不十分なワクチンの使用について、強く警鐘を鳴らしている。